東邦大学 科学技術社会論 I (第3回) 授業中レポート

(1)	氏名			

(2) 学籍番号

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 演繹的推論の例を、前提1、前提2、結論の3つのセットでひとつ答えよ。

前提1:人間はいつか死ぬ

前提2: ソクラテスは人間である

結論: リクラテスはいつか死ぬ

(4) アブダクション (Abduction) の例を、前提1、前提2、結論の3つのセットでひとつ答えよ。

前提1: 食心すぎると太る

前提2:太った

結論: 太ったのは食べすがたからだ

(5) 科学と疑似科学とを区別する基準のひとつとして、反証可能性という概念を提唱したのは誰か?

カール・ボッパー

(6) 科学と疑似科学とを区別する基準のひとつを独自に設定し、その基準について説明せよ。

限界に誠実であるかどうか基準

どういう反例が多く蓄積されたらきに自然の誤りを認めるべきがについて明確に答えられ、 実際にそのように対応する準備がよる。



(7) ハンソンの言う「観察の理論負荷性」にもとづくと、「観察が先か? 理論が先か?」の問題にはどのような答えを与えることができるか?

どちらが先ということはなく、にわとりと即の関係になっている

なぜならば、何も観察し、その結果をどう解釈するかは何らかの理論や仮説に基づいて決められてあり、観察の理論負荷性)、理論はもちるん観察から基かれるものであるからである

(8) クワインの全体論に従うと、科学における「決定実験」が不可能となることを、可能な限り自分の言葉で説明せよ。

「決定実験」とはその結果によってある仮説が真であるか偽であるかを決定することができる実験のことだが、全体論によると科学的仮説は単一の命題ではなく、複数の命題から成り立ってあり、仮に仮説に不利な結果が出ても一部の命題を修正することができるから

(9) 科学的実在論と科学的反実在論との考え方の差を簡潔に説明せよ。

科学的実在論は科学理論に登場なる「電子、クオーク、ヒックな粒子など」が実際に世界に存在していると考とる、一方の反実在論はそれらが実際に世界には存在しているかどりか人間には何からないと考える。

(10) 科尚的中方語,后中方語に関して	なかた白色はどのとうか立根に立	2 th 2				
(10) 科学的実在論・反実在論に関して、 科学的実在論	操作主義(反実在論)	道具主義(反実在論)				
構成的経験主義(反実在論)	観念論(独我論)	社会構成主義				
その他						
(11) 前問で「その他」と答えた人は、その立場を名づけ、その立場について簡潔に説明せよ。						
(12) 今日の講義で分からなかったこと、もっと知りたかったことについて、自由に回答せよ。						